

テーマ:堺市内の「観光と名物&グルメ」のご紹介
出席者会員でそれぞれトーク

於:神戸生活創造センター5F
(JR神戸駅前 神戸クリスタルタワー内)

現在の堺市は、堺区、北区、西区、中区、東区、美原区、南区の7区から成っています。

堺全市人口(2015-3-1現在):83.9万人、

(堺区:14.7万人、北区:15.8、西区:13.5、中区:12.4、東区:8.5、美原区:3.9、南区:14.8)。

旧市内は、殆どが堺区にあり、観光地の古墳、公園、神社、寺、名物&グルメなど。

交通機関は、

- * 地下鉄(千里中央---なかもず):---北花田---新金岡---なかもず。
- * JR阪和線(天王寺---和歌山):---浅香---堺市---三国ヶ丘---百舌鳥---上野芝---鳳---
- * 南海高野線(なんば---高野下):---浅香山---堺東---三国ヶ丘---百舌鳥八幡---中百舌鳥---
- * 阪堺線(天王寺---浜寺公園):---高須神社---綾ノ町---神明町---妙国寺前---花田口---
---大小路---宿院---寺地町---御陵前---
- * 南海本線(なんば---和歌山):---七道---堺---湊---石津川---浜寺公園---

1. 古墳:4世紀末~6世紀後半に116基が築かれ今も47基が残る。代表的なものは、
(所在地) アクセス

- * 仁徳天皇陵=大仙陵(堺市堺区大仙町) JR:百舌鳥駅から西(海側)へ徒歩で約5分。
第16代-仁徳天皇の陵(古墳)---百舌鳥耳原中陵(もず-みみはら-なかの-みささぎ)
全長=486m,(後円部直径=249m,-高さ=35.8m,---前方部幅=307m,-高さ=33.9m,)
前方部を南に向け正面とし参拝所があり、三重の濠が巡っています。
・「百舌鳥耳原の地名の由来:仁徳天皇が、即位後67年の10月に、今の大仙陵の近くに
来られて、ご陵をつくる場所をきめられました。つくりはじめた日に、シカが走ってきて、
工事をしている人々の前で急にたおれて死にました。勢いよく走っていたシカが急に
死んだので、ふしぎに思って調べてみると、シカの耳からモズが飛び去りました。シカ
の耳の中は、すっかりモズに食いさかれていたのです。この小さなモズの勇ましい
ハタラキをたたえて、この土地を百舌鳥耳原と呼ぶことにした。モズは大阪府の府鳥」。
- * 履中天皇陵(堺市西区石津ヶ丘) JR:上の芝駅から西へ徒歩5分。
第17代-履中天皇の陵(古墳)---百舌鳥耳原南陵(もず-みみはら-みなみの-みささぎ)
全長=360m,(後円部直径=205m,-高さ=25m,---前方部幅=237m,-高さ=23m,)
前方部を南に向け正面とし参拝所があり、一重の濠が巡っています。
- * ニサンザイ古墳(堺市北区百舌鳥西之町) JR:百舌鳥駅から南東へ徒歩20分。
第18代-反正天皇の陵墓参考地(古墳)---東百舌鳥陵墓参考地
全長=290m,(後円部直径=156m,-高さ=24m,---前方部幅=226m,-高さ=22.5m,)
前方部を西に向け、参拝所はなし、一重の濠が巡っています。
- * 御廟山古墳(堺市北区百舌鳥本町1丁) JR:百舌鳥駅から東南へ徒歩7分。
第15代-応神天皇陵の第2候補として陵墓参考地に指定され宮内庁が管理。
全長=186m,(後円部直径=95m,-高さ=17m,---前方部幅=119m,-高さ=17m,)

前方部を西に向け、参拝所はなし、一重の濠が巡っています。

* 反正天皇陵(堺市堺区北三国ヶ丘町2丁) 南海高野線:堺東駅から東へ徒歩10分。
第18代反正天皇の陵(古墳)---百舌鳥耳原北陵(もず-みみはら-きたの-みささぎ)
全長=148m,(後円部直径=76m,-高さ=10m?,---前方部幅=110m,-高さ=10m?,)
前方部を南に向け正面とし参拝所があり、一重の濠が巡っています。

* いたすけ古墳(堺市北区百舌鳥本町3丁) JR:百舌鳥駅から南東へ徒歩10分。
天皇の名前は不明の陵(古墳)
全長=146m,(後円部直径=90m,-高さ=11.5m,---前方部幅=99m,-高さ=10.5m,)
前方部を西に向け、参拝所はなし、一重の濠が巡っています。

2. 公園: (所在地) アクセス

* 大浜公園(堺市堺区大浜北町4丁3) 南海本線:堺駅から 西(海側)へ徒歩7分。
大魚夜市は毎年7月31日に行われる。(古くは7月31日深夜から8月1日で行っていた)。
8月1日に、住吉大社の夏越祓神事に際して、神輿が堺の宿院頓宮(住吉大社の御旅所。
明治以降は大鳥大社の御旅所も兼ねている)に渡御するのに合わせて、地元の漁師たちが魚を持ち寄って神前に奉納。その際、大浜海岸に魚市が立ったことに由来する。

* 大仙公園(堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁204) JR:百舌鳥駅から 西へ徒歩5分。
・平和塔、堺市博物館、自転車博物館、堺市立中央図書館、堺市緑化センター、
・伸庵と黄梅庵(茶室)、日本庭園(築山林和泉回遊式庭園:中根金作の作庭)等あり。

* 金岡公園(堺市北区長曾根町1179) 地下鉄:新金岡駅から西へ徒歩12分。
陸上競技場(正式400mトラック)、体育館、野球場、プール、テニスコート(8面)などがある。
さくらの季節:プールの周囲、野球場グラウンドの周囲は見事な花見でにぎわう。

* 大泉緑地(堺市北区金岡町128) 地下鉄:新金岡駅から東へ徒歩10分。
大阪府営の緑地。大阪四大緑地(服部・鶴見・久宝寺・大泉)のひとつ。

* 浜寺公園(堺市西区浜寺公園町) 南海本線:浜寺公園駅から西へ徒歩5分。
大阪府営の都市公園。約5500本の松林で知られる。

3. 神社、寺。

* 妙国寺 (堺市堺区材木町東4丁1-4) 阪堺線:妙国寺前駅を東へ徒歩5分。
・永禄5年(1562)建立の寺。堺の大商人の油屋常言の子 日珖上人(日蓮宗)が、当時堺を
支配した三好一族の援助で建てたと伝えられています。

・夜泣きのソテツで有名:

天下統一を果たした織田信長が安土城へ移植させたところ、毎夜「堺へ帰ろう」と泣く、
激怒した信長が部下に命じてソテツを切らせたところ、切り口より鮮血が流れ、大蛇の
ごとく悶絶。さすがの信長も気味悪がり、ソテツを妙国寺へ返す。日珖上人の読経で
ソテツが回復。ここから「蘇鉄」という名がついた。樹齢1100年=国の天然記念物。

・慶応4年(1868)土佐藩士11名が境内で切腹。=上陸したフランス兵との騒動。

* 菅原神社(堺市堺区戎之町東2丁1-38) 阪堺線:大小路駅を東へ徒歩3分。

- ・通称:「堺天神」。997年天神社として菅原大神を奉祀。
- ・祭神:菅原道真(すがはらみちざね)、天穗日命(あめのほひのみこと)、野見宿禰(のみのすくね)。

- * 方違神社 (堺市堺区北三国ヶ丘町2丁2-1) 南海高野線:堺東駅を東へ徒歩15分。
 - ・応神天皇の時代に天神地祇ほか三座を祀り、方違大依羅神と号し、方違宮と称した。
 - ・祭神:方違幸大神(かたがえさち-おおかみ)、天神地祇、素戔鳴尊(すさのおのみこと)、住吉大神、神功皇后。
 - ・方向に関する災いを防ぐ、「どの方角にも属さない神社」。
 - ・摂津、河内、和泉の3国の国境である三国ヶ丘に位置したことから、ここに参拝すれば、三国の土を踏む。方違えを行ったと同じ意味=方角に関する厄除け神社。

- * 開口(あぐち)神社 (堺市堺区甲斐町東2丁1-29) 阪堺線:大小路駅を東へ徒歩3分。
 - ・祭神:塩土老翁神(しおつちのおじのかみ)、素戔鳴尊(すさのおのみこと)、生国魂神。
 - 塩土老翁神は住吉大社の住吉三神の一つにして神徳を現した神「住吉の奥の院」呼ぶ。
 - ・通称の「大寺」はかつて存在した神宮寺の念仏寺(真言宗)に由来し、古く「日本の神々は仏の姿を変えたものである」との思想に依る。(念仏寺の開山は774年(天平16年)行基)。

- * 宿院頓宮 (堺市堺区宿院町東2丁1-6) 阪堺線:宿院駅を西へ徒歩3分。
 - ・住吉大社の御旅所として設置され(年代不詳)住吉の「宿居」から転じて「宿院」と呼ばれる。現在は7月31日に大鳥大社から、8月1日に住吉大社から神輿の渡御行われている。
 - ・祭神:住吉大神(底筒男命、中筒男命、表筒男命、息長足姫命)。大鳥井瀬大神(弟橋媛命)。

- * 南宗寺 (堺市堺区南旅籠町東3丁1-2) 阪堺線:御陵前駅を東へ徒歩5分。
 - ・三好氏の菩提寺:臨済宗大徳寺派、山号=龍興山。「本尊は釈迦三尊」。
 - 開山=大林総宗套、中興=沢庵宗彭。
 - ・国の重要文化財:仏殿、唐門、山門(甘露門とも称する)。
 - ・枯山水庭園=国の名勝。(古田織部作)。
 - ・茶人の武野紹鷗、千利休が修行した縁の寺。堺の町衆文化の発展に寄与した寺院。
 - ・茶室:実相庵=千利休好み。
 - ・墓:三好一族、徳川家康のものと伝えられるもの。
 - ・供養塔:武野紹鷗、千利休一門、津田宗及、中井芳滝。

4. 名物&グルメ

- * ちく満:そば (堺市堺区宿院町西1丁1-16) 阪堺線:宿院駅を南西へすぐ。
 - ・創業は元禄8年(1695年)老舗中の老舗。
 - ・商品は、蕎麦1種類のみ。
 - ・湯通しせいろ蕎麦と熱々の蕎麦つゆ、生卵ときざみねぎ。
 - ・食べ方:お椀に生卵をとき、きざみねぎを入れ、湯通しせいろ蕎麦を生卵につけ、熱々の蕎麦つゆをかける。ただこれだけ。
 - ・1斤=800円、1.5斤=1,000円。

- * 美々卵(うどんすき)本店(現在):(大阪市中央区平野町4-6-18)
 - 全店数:24 (関西:15店、関東:8店、中部=1店)。
 - 美々卵(うどんすき)堺店:(堺市堺区中之町東1丁1-2)。
 - 関西:15店のうちのひとつ。 阪堺線:宿院駅を南東へ徒歩3分。

- ・美々卯の由来:創業:大正14年(1923)。創業者:薩摩平太郎。創業地:(大阪の道頓堀)。堺で200年続いた料亭「耳卯樓」を営む耳家の四男=薩摩平太郎氏は、小学校卒業後数々の料亭で修行を重ねた。23歳頃、蕎麦処「ちく満」で1年間ソバの修行。次に1ヶ月ほど全国各地のソバとうどんを調べ歩く。帰阪した平太郎氏は「そばうどんの店を開く」と宣言。「美々卯」の暖簾を1923(大生14)年、道頓堀にかかげた。
 - ・そばが15銭の時代、美々卯で使用していた器は4~5円のもの、箸は吉野杉製と、一流店に劣らない贅の尽くしよう。平凡ではなく工夫を凝らした店を理想としていた平太郎さんは、新しい料理の考案に没頭していました。ある時、妻と牛すきを食べたあと、残り汁にうどんを入れて煮込んでみたら、おいしくいただきました。そのうどんの美味を何とか最初から出せないものかと思いついたのです。
 - ・「うどんすき」が完成したのは1928(昭和3)年。
試作を重ねてつくった鉄鍋にたっぷりとお汁を注ぎ、太打ちのうどんを入れます。そして、カシワ、エビ、ハマグリ、アナゴなど、季節の素材をとり入れた彩りも美しい15種の具とともに煮込みます。それらの具はサッと茹でたり下味をつけるなどして、アクが出ないように下準備されたもの。いくら煮込んでも煮崩れしないうどんは、粉の配分や練り具合に工夫。
 - ・従来うどんのイメージを覆したのは、当時1円50銭という、現在の1万円ほどもする高価なものでしたが、ひいき筋にはさっそく評判となりました。
 - ・味には一家言もつ文豪、谷崎潤一郎氏も好んで食した「美々卯のうどんすき」。
- * 大寺餅河合堂(株):(堺市堺区少林寺町西4丁1-27) 南海本線:堺駅を東へ徒歩10分。
- ・創業:慶長元年(1596年) 通称「大寺さん」と呼ばれる開口神社の境内にて創業。参拝客に”あんころ餅”や”きなこ餅”などを販売して400余年、老舗ならではの味。
 - ・商品=大寺餅(6ヶ入):540円(税込)、与謝野庵「栗くるみ」(6ヶ入):2,106円(税込)。
- * かん袋:くるみ餅 (堺市堺区新在家町東1丁2-1) 阪堺線:寺地町駅を南東へ徒歩3分。
- ・由来:鎌倉時代末期、元徳元年(1329年)に和泉屋徳兵衛が和泉屋という商号で御餅司の店を開いたのが始まり。
 - ・室町時代の中頃(1420年)には、堺の町は明との勘合貿易の貿易港として栄えていた。明国より入荷した農作物を利用して、五代目の和泉屋忠兵衛は塩味で挽き合わせ、茶菓子を作り出しました。お餅をくるんで食べるころから「くるみ餅」と名づけました。その後、ルソンから砂糖が輸入され、甘味が加えられ現在のくるみ餅となった。
 - ・文禄二年(1593年)の春の中ごろ、豊臣秀吉は、桃山御殿が完成した機会に、寄付金のお礼に、堺の商人納屋衆を招きました。その時、天守閣は瓦を葺く工事中で、職人が、一枚一枚瓦を運びあげていました。この様子を見た和泉屋徳左衛門は、次から次へと、瓦を取って屋根の上にほり上げました。ちょうど紙袋がひらひら舞い散るように。秀吉が、「かん袋が散る様に似ている」と、その腕の強さを称え、「以後かん袋と名づけよ」と命じ、それより「かん袋」が、和泉屋の商号になりました。
 - ・現在の商品:くるみ餅=(1人前シングル:360円)、(2人前ダブル:720円)。
氷くるみ餅=(1人前シングル:360円)、(2人前ダブル:720円)。
容器入り=(2人前入り:880円)、(4人前入り:1,690円)、(6人前入り:2,470円)、
(8人前入り:3,290円)、(10人前入り:4,120円)。
小鉢入り=((2人前入り:1,080円)、(4人前入り:1,950円)。
壺入り =(3人前入り:1,650円)、(5人前入り:2,580円)、(8人前入り:3,900円)。

-以上